

課題番号	GZ005
------	-------

**先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)
実施状況報告書(平成25年度)**

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名	アジア沖積平野立地型都市郊外における循環型社会を基調とした都市農村融合と戦略的土地利用計画
研究機関・ 部局・職名	和歌山大学・システム工学部・准教授
氏名	原 祐二

1. 当該年度の研究目的

阪南・和歌山については、引き続き堺市域内の有機性資源利用状況について情報収集を進め、空間解析し結果をとりまとめていく。中国天津市については、現地共同研究者と連携して統計・地理情報および現地農家情報の収集を進め、有機性資源の需給バランスの視覚化を目指す。4事例都市間比較とりまとめ論文の構造を決定する。

2. 研究の実施状況

以下研究マトリクスに当該年度の進捗状況を要約する。既達成部分はいずれも査読論文として掲載済み。

	堺市	ノタブリ県	ケソン市	天津市
緑地・農地の空間分布	既達成	既達成 追加調査(1)	既達成	既達成
有機性資源の排出特性とフロー	まとめおよび新規データ収集(a)	既達成	既達成	空間解析試行(b)
都市郊外緑地・農地における青果生産量・フロー	既達成	論文査読中(2)	本年度達成(3)	空間解析試行(b)

(1)洪水後の農地研究が都市計画学会論文として掲載、さらに追加内容を農村計画学会誌に投稿

(2)Land Use Policy 査読中(2014年3月現在)

(3)ランドスケープ研究掲載決定

(a)新制度防災農地にも着目した追加分析を行っている。これにより災害時の有機性資源担保についても、追加調査(1)のノタブリ県の2011年洪水事例との比較検討が可能になり、研究事業当初目的の増分成果となる。

(b)今後4都市比較を行う上で、最大公約数となる1km解像度での野菜需給バランスを図化した。

様式19 別紙1

3. 研究発表等

<p>雑誌論文 計 6 件</p>	<p>(掲載済み一査読有り) 計 3 件 <u>Hara, Y., Murakami, A., Tsuchiya, K., Palijon, A.M. and Yokohari, M. (2013): A quantitative assessment of vegetable farming on vacant lots in an urban fringe area in Metro Manila: Can it sustain long-term local vegetable demand? <i>Applied Geography</i> 41, 195–206. http://dx.doi.org/10.1016/j.apgeog.2013.04.003</u> <u>Hara, Y., Tsuchiya, K., Matsuda, H., Yamamoto, Y. and Sampei, Y. (2013): Quantitative assessment of the Japanese local production for local consumption movement: a case study for vegetables in the Osaka city region. <i>Sustainability Science</i> 8, 515–527. http://dx.doi.org/10.1007/s11625-012-0198-9</u> 新屋 匡翔・土屋 一彬・原 祐二・タイターク ダナイ(2013): バンコク郊外における洪水パターンに地形改変を伴う市街地開発が与えた影響-2011年の大規模洪水を事例として-.都市計画論文集 48, 783–788. http://dx.doi.org/10.11361/journalcpj.48.783 (掲載済み一査読無し) 計 1 件 土屋 一彬・原 祐二・宮川 智子(2013): アジア都市の水辺における緑地の保全と再生—タイ王国チュラロンコン大学との国際ワークショップ報告. 和歌山大学国際教育研究センター年報 9,63–65. (未掲載) 計 2 件 山路 啓太・田口 優・原 祐二・土屋 一彬・三瓶 由紀(2014): 屋上菜園の開設プロセスと農的機能に関する研究. ランドスケープ研究 77,643–648. 三瓶 由紀・原 祐二・村上 暁信・バリホン アルマンド・土屋 一彬・横張 真(2014): メトロマニラ郊外部を対象とした有機性廃棄物の地域内循環実現可能性. ランドスケープ研究 77,697–700.</p>
<p>会議発表 計 3 件</p>	<p>専門家向け 計 3 件 Yukimatsu, H., <u>Hara, Y.</u>, Tsuchiya, K., Thaitakoo, D. and Yokota, S. (2013): Study on agricultural landscape and its resilience to local and global environmental changes in the urban fringe of Bangkok. IGU 2013 Kyoto Regional Conference.国立京都国際会館 竹中 梓・原 祐二・三瓶 由紀(2013): 都市計画用途地域・土地利用別にみた都市内植生の分布に関する研究—防災機能に着目して—. 環境情報科学 43-1, 65. 日本学会館 山神 勸・原 祐二・三瓶 由紀(2013): 工場用地・低未利用地の分布特性ならびに緑化に関する研究. 環境情報科学 43-1, 66. 日本学会館 一般向け 計 0 件</p>
<p>図書 計 0 件</p>	
<p>産業財産権 出願・取得状況 計 0 件</p>	<p>(取得済み) 計 0 件 (出願中) 計 0 件</p>
<p>Webページ (URL)</p>	<p>アジア沖積平野立地型都市郊外における循環型社会を基調とした都市農村融合と戦略的土地利用計画 http://www.wakayama-u.ac.jp/~hara/next/</p>
<p>国民との科学・技術対話の実施状況</p>	
<p>新聞・一般雑誌等掲載 計 0 件</p>	

様式19 別紙1

その他	本研究成果を基盤に本学大学院正規科目「地理情報システム特論」を開講、受講者の高評価を得た。
-----	---

4. その他特記事項

なし

実施状況報告書(平成25年度) 助成金の執行状況

本様式の内容は一般に公表されず

1. 助成金の受領状況(累計) (単位:円)

	①交付決定額	②既受領額 (前年度迄の 累計)	③当該年度受 領額	④(=①-②- ③)未受領額	既返還額(前 年度迄の累 計)
直接経費	25,000,000	18,418,000	6,582,000	0	0
間接経費	7,500,000	5,525,400	1,974,600	0	0
合計	32,500,000	23,943,400	8,556,600	0	0

2. 当該年度の収支状況 (単位:円)

	①前年度未執 行額	②当該年度受 領額	③当該年度受 取利息等額 (未収利息を除 く)	④(=①+②+ ③)当該年度 合計収入	⑤当該年度執 行額	⑥(=④-⑤) 当該年度未執 行額	当該年度返還 額
直接経費	11,453	6,582,000	0	6,593,453	6,593,453	0	0
間接経費	0	1,974,600	0	1,974,600	1,974,600	0	0
合計	11,453	8,556,600	0	8,568,053	8,568,053	0	0

3. 当該年度の執行額内訳 (単位:円)

	金額	備考
物品費	1,431,733	衛星画像データ 等
旅費	1,962,531	研究資料採取、学会発表 等
謝金・人件費等	2,212,628	特任人件費 等
その他	986,561	学会参加費、論文掲載料 等
直接経費計	6,593,453	
間接経費計	1,974,600	
合計	8,568,053	

4. 当該年度の主な購入物品(1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様・型・性能 等	数量	単価 (単位:円)	金額 (単位:円)	納入 年月日	設置研究機関 名
				0		
				0		
				0		